

# 『日本の臨床栄養の歴史：食べられない患者さんに対する 栄養管理として発展してきたのです』

このゼン先生の栄養管理講座は第100回を迎えました。3月12日には彩の国東大宮メディカルセンターへ行って講演しました。3月19日と20日、第11回静脈経腸栄養協議会指導者協議会を開催しました。これがいつもの書き出しなんですが、ウクライナ情勢を見ていると、こんなことやっている場合じゃない、そんな思いになります。本当にひどい。何の罪もないウクライナを攻撃する。たくさんの方がウクライナから逃げる、亡くなる。ロシア側の、プーチンの勝手な考えでウクライナを攻める。ウクライナの人を捕虜にしてシベリア、サハリンへ連れて行く。第二次世界大戦の時と同じ、日本人のシベリア抑留、あれと同じ、ひどい！プーチンはヒトラーと同じです。第二次世界大戦が終わってももうすぐ80年。戦争を反省して平和な世の中を築こうとしているじゃないの？反省して、反省して、反省して。この時代にこんな悲惨な出来事が起こる、信じられない。本当にウクライナの人達がかわいそう。戦争は人を塊として扱う。ロシア軍が殺そうとしているのはウクライナ人。ウクライナの誰それが相手だと思ったら、ミサイルなんか撃ち込めるはずがない。名前がわかったら銃を打てるはずがない。これは戦争ではない、殺人です、犯罪です。信じられないこと。私には何もできないけど、この怒りの火は心の中に燃やし続けます。停戦交渉？とにかく、プーチンを破滅させるしかない！すべてのロシアの人が悪いのではないが。

コロナは、全国の蔓延防止等重点措置が解除になりましたが、感染者数はなかなか減りません。収束は遠い。マン防が解除になれば、桜も咲いたし、新年度だし、気が緩むのは間違いないでしょう。どうすることもできない？いつまでこの状態が続く？でも、感染対策を講じながら、学会や研究会は復活させなければなりません。

そんな中、3月12日には第16回AMG（上尾中央医科グループ）のNSTフォーラムのために大宮へ。ズームでの開催でしたが、特別講演は大阪からの発信ではなくて会場の方が盛り上がる！と言われて、久しぶりに大宮へ行きました。かなり早く大宮に到着したので、鉄道博物館へ行き、氷川神社へ立ち寄ってから彩の国東大宮メディカルセンターへ。昼飯は病院内のカフェで。ズームでフォーラムを開催するのは初めてで、みなさん、相当緊張していたようです。松本くんがシステムを一手に引き受けてがんば



↑小越章平先生、岡田正（あきら）先生、ダドリック先生です。静脈栄養・経腸栄養を勉強する人は、絶対に、この3人は知っておかなくてはなりません。



↑大宮の氷川神社。氷川神社の総本社。NHKの「プラタモリ」で知って、一度は行きたいと思ったのです。ふくろ絵馬が有名だとのこと。2kmもある参道を歩きたかったのですが、この日は20度以上の気温。上着もいらないくらいだったので、歩いたら汗だくになると思って断念しました。



↑彩の国東大宮メディカルセンターです。以前、電車で最寄り駅のJR土呂駅から歩いて行った時、大宮から相当遠いと思ったのですが、近かった。阪大第一外科の先輩、坂本嗣郎先生の思いが詰め込まれた病院です。



↑彩の国東大宮メディカルセンターのカフェです。カレーを食べました。ちょっと足りなかったんで、アンパンと桜パンを食べました。食べすぎ、ですよ。しかし、おいしいパンでした。





↑ 第一部では、会議室で3名の発表がありました。みなさん、熱心に栄養管理を実践しておられます。私はコメンテータ。体位によって血清アルブミン値が異なることが話題となり、私が論文を書いていることを紹介していただきました。

っていました。講演はいつものように。座長の大村先生が突然の用事で参加できなくなったのですが、神田先生が座長を務めてくれました。気持ちよく講演させていただきました。山本さん、お招きいただき、本当にありがとうございました。

そうして、3月19日、20日は第11回リーダーズ in 熊本。開催するかどうか悩んだのですが、気合で開催を決めました。不安だらけ！最終的には会場参加者が約50名、全体の参加者が157名。会場での議論は盛り上がりました。やっぱり会場で、顔を見ながら議論するのが学会だと実感しました。しかし、もう少しメディカルスタッフに参加して欲しかった！後日、参加者全員にお礼メールを送ったところ、「会場へ行きたかった」「オンラインだけだと会場の熱気が伝わった」「9月の第12回リーダーズは必ず会場へ行く！」などのうれしい返信をいただきました。会長の田中先生、副会長の森崎先生の気合は尋常じゃなく、二人とも疲れたはずですが、発表もたくさん。田中先生を中心としてNSTが活躍している姿が見えました。熊本は蔓延防止中だったので食事に苦労したとのこと。やっぱり懇親会がしたい！ゆっくり会食したい！学術集会のスケジュールは時間刻みなものでゆっくり話をする余裕がない。熊本観光はほぼゼロ。ホテルの隣の白川の畔を散歩した、市内を歩いた、だけでした。熊本城観光のために新幹線の時刻をもっと考えたらよかったと反省。本当は、日曜日も熊本に宿泊して観光したかったのですが、コロナの



↑ 第2部は特別講演。「食べられない患者に対する栄養管理」として講演しました。このタイトルにすると、何をしゃべってもいいんです。私の仕事は「食べられない患者に対する栄養管理」そのものですから。静脈栄養、経腸栄養、カテーテル管理在宅栄養・・・。松本くん、ご苦労様でした。あ、山本さんも、〇〇さんも・・・。



↑ 上段は、会長の田中先生、岡田正メモリアルレクチャーの山田繁代さんです。座長、発表者、質問者、ばらばらに、とにかく、写真を出しました。



↑ オンライン参加の方々の写真です。画面の写真なので、くっきりとはしていません。右上の菜畑さんと比べると明らかです。





↑ 鹿屋市の池田病院の方々の集合写真です。池田院長の写真は、少し大きくしました。これだけの方が参加してくださいました。発表も4題、質問にも立ってくれました。おかげで有意義な学術集会になりました。ありがとうございました。池田院長、本当にありがとうございました。



論文賞 (Medical Nutritionist of PEN Leaders)  
 2019年 吉川正人: 東宝塚さとう病院  
 栗山とよ子: 福井県立病院  
 2020年 西迫直人: 池田病院  
 合谷隆義: 元アポットジャパン  
 2021年 衣笠章一: 尖栗総合病院  
 藤本瞳: 大阪大学  
 栗山とよ子: 福井県立病院



↑ 論文賞授与式の写真です。それぞれの方とのツーショット写真ですが、私の写真は1枚だけに、省略しました。まあ、マスクもしていますし、同じ顔ですから。みなさん、いい論文を書いていただいています。次号にたくさん、論文を掲載したいので、がんばってください。

ために断念。とにかく、リーダーズ学術集会を開催できたこと、なによりでした。9月には堂堂と会場だけで第12回を開催できると思います。期待しています。お祈りしています。9月24日25日、大阪、千里金蘭大学の講堂で開催します。

3月16日には福島沖を震源とするマグニチュード7.4の地震。新幹線が脱線しました。木暮君の家の石灯籠は倒れなかったそうです。3月の大阪場所では福島出身の若隆景が優勝。本当に明るい話題です。木暮くんにお祝いメールを送りました。若隆景はぶよぶよの肥満力士ではなく、筋骨隆々の力士です。応援しています。千代の富士を彷彿とさせる体形。前禪（前みつ）をとって、投げる、つり出す、うっちゃる、そんな相撲が見たい。ドンとぶつかってドスンと倒れる、そんな今の相撲は面白くない。だから、がんばって欲しい。



↑ 白川、熊本ラーメン、くまもん、陣太鼓です。陣太鼓は、学術集会に参加していただいた方への記念品？にしました。「ようこそ、熊本会場へ。活発に議論して栄養管理を勉強しましょうリーダーズ」とのメッセージを入れさせていただきました。熊本ラーメンは熊本駅で食べました。急いで数分で食べましたが、十分、味わえました。



福島県出身 若隆景

2022年大阪場所: 若隆景が優勝!

↑ 2022年の大阪場所。新関脇の若隆景が優勝しました。新関脇で優勝したのは双葉山以来、福島県の力士が優勝したのは栃東以来。小兵だけど、筋骨隆々でいい相撲をとっています。体重を増やして、ドンとぶつかってバタンと転がる、そんな相撲が多くなっていて、面白くなってきています。組んで、投げる、つり出す、うっちゃる、そんな相撲が見たいので、がんばって欲しい。応援します。若隆景、わかたかかけ、言いにくい。早口言葉になるかも。3回、続けて言ってみてください。

**ゼン先生**：先生、熊本で第11回静脈経腸栄養管理指導者協議会を開催しました。開催するかどうか迷ったんですが、開催してよかったです。

**小越先生**：ハイブリッドだったんだろう？何人、会場に来てくれたんだ？

**ゼン先生**：会場は50人ちょっとでしたが、いい議論もできました。

**小越先生**：オンラインでの参加のほうが多かったんだろう？

**ゼン先生**：100人ほどがオンラインでした。

**小越先生**：会場の50人ががんばって議論してくれたんだな。

**ゼン先生**：はい。活発な議論ができて、有意義な学術集会になりました。会長の田中さんと副会長の森崎さんの気合の入れ方がすごくて、かなり疲れたはずですよ。

**小越先生**：疲れ？大丈夫だよ。二人とも若いから。

**ゼン先生**：確かに、心地よい疲れのはずですよ。

**小越先生**：主な議論の内容は何なんだ？

**ゼン先生**：盛りだくさんでした。記録集を読んでください。

**小越先生**：岡田正メモリアルレクチャーは？

**ゼン先生**：看護師の山田繁代さんに「Medical Nutritionistとして歩んできた看護師：私」と題して講演していただきました。

**小越先生**：いいタイトルだ。

**ゼン先生**：私が決めたんですが、山田さん、照れて、いやだったようです。

**小越先生**：かもな。自分ではこのタイトルにはしにくい。

**ゼン先生**：でも、このタイトル通りの活動をされたのは間違いありません。

**小越先生**：オレもそう思う。看護師さん達に聞かせたい内容だったんだろう？

**ゼン先生**：もちろんです。DVDにして全国の看護師に聞かせたい内容でした。

**小越先生**：山田さんを真似る看護師がたくさん出てくれるといいなあ。その後の議論の内容はどうなんだ？

**ゼン先生**：がん悪液質、胃瘻の適応、これが2大トピックスだったと思います。

**小越先生**：どちらも、いくらでも議論できるテーマだな。内容に対して時間が足りなかったんじゃないか？

**ゼン先生**：本当はもっと時間的に余裕があるスケジュールにしたいんです。2日間か、せめて1日半は欲しいですね。

**小越先生**：1日半にしたら？

**ゼン先生**：9月の第12回は考えます。でも、いろいろ反省もありました。

**小越先生**：どういう反省なんだ？

**ゼン先生**：発表者は、もっと焦点を絞って、どこを議論したいのかを明確にするべきですね。だらだらとプレゼンしないことです。質問も回答もここが大事だというポイントをバシッとして、でしょうか。

**小越先生**：しかし、座長が大変だな。

**ゼン先生**：そうです。しかし、座長と司会は違う、それがだんだ



↑ 熊本城の写真をたくさん送っていただきました。完全には修復できていないのですね。シートがかけられている部分もあるし、壊れたままの石垣、それに伴って変形している建物の写真もあります。



↑ いろいろな角度からの熊本城です。下左は青空なので3月19日でしょうか。右下は山内さんと吉川さんのツーショット写真です。笑える？高校生？いい写真です。仲良しの写真です。



↑ 松末先生に送っていただいた写真です。熊本キャッスルホテルからこのような熊本城が見えるそうです。私も何年前にこのホテルに宿泊し、同じような写真を撮った記憶があります。



んわかってきたような進行でした。

**小越先生**：なるほど、成長しているということだ。

**ゼン先生**：その通りです。参加者は、学術集会とはこういうものだ、と理解してきています。

**小越先生**：いい話だ。がんばって続けなくてはな。

**ゼン先生**：しかし、論文を書くという姿勢がいまいちです。

**小越先生**：君はいつも言っているけど、なかなか、なんだな。

**ゼン先生**：はい。私は言い続けます。

**小越先生**：論文賞の授与式をしたんだって？

**ゼン先生**：はい。今回、渡したのは盾だけなんですけど、副賞を考えています。

**小越先生**：副賞か。うれしいもんだよ。しっかり考えなさい。ここで受賞者の名前を披露しなくていいのか？

**ゼン先生**：表にして出しますが、栗山先生が2つも盾を持って帰りました。

**小越先生**：また栗山先生がもらったのか。

**ゼン先生**：はい。2019年と2021年の論文賞です。これで論文賞の盾が4つだと思います。

**小越先生**：へええ、家は盾だらけだな。

**ゼン先生**：確かにいい論文を書いておられます。これからは、栗山先生に論文賞をとらせないようないい論文をほかの方達に書いて欲しいですね。

**小越先生**：ハハハ、確かに、若い人たちががんばって欲しいもんだ。

**ゼン先生**：発破はかけたつもりです。ところで、先生、このゼン先生の栄養管理講座は、今回が100回目です。

**小越先生**：へええ、100回か。みんなの栄養管理講座から数えると何回目？

**ゼン先生**：250回です。

**小越先生**：へええ。毎月だからもう20年を超えているんだな。

**ゼン先生**：そうです。先生にも、もう100回以上出演していただいています。

**小越先生**：オレの名前もちょっとは憶えてくれている人がいるんじゃないか？

**ゼン先生**：この領域で古くから活動している人は知っていますが、残念ながら、小越章平先生を知っている人は、少なくなっています。

**小越先生**：まあ、そうだろう。日本静脈経腸栄養学会も名称変更してしまったからな。

**ゼン先生**：そうですね。理事長でなくなってから2~3年経った時、急に会員が増えたから、オレのことを知らない会員ばかりになって、オレが会場を歩いていても誰も挨拶もしてくれない

って嘆いていましたよね。

**小越先生**：君に愚痴ったな。

**ゼン先生**：愚痴というほどではなかったように感じましたが。

**小越先生**：君は、オレが理事長を降りてからも座長で何回も引っ張り出してくれた、あれはうれしかったぞ。

**ゼン先生**：理事長の小越先生ではなく、私は、臨床栄養の小越先生を尊敬していますから。

**小越先生**：理事長を降りたら、それまで、オレにいろいろすり寄ってきていた連中が去っていった。本当の人間性がわかると思った。

**ゼン先生**：その連中には、理事長という立場が大事だったんですよね。

**小越先生**：そうだ。〇〇なんか、その典型だ。

**ゼン先生**：その〇〇は言わないほうがいいと思います。

**小越先生**：わかっている。時間が流れているんだなあ。

**ゼン先生**：本当、時間は止まってくれません。

**小越先生**：そういえばTNTローンチ（launch、立ち上げ）でシカゴに10人で行ったけど、まだこの領域で活動しているのは、もう君だけなんじゃないか？

**ゼン先生**：確かに、私だけですわ。



↑ 企業プレゼンと企業展示です。6社も協力していただきました。ありがたいことです。企業プレゼンでは、4社のあと、広告を出してくださった企業についても、私が追加でプレゼンしました。お付き合いで広告を出してくれた企業にも、協力していただいてありがとうございますとの、私の気持ちです。

**小越先生**：若手では、吉田、正田、東口、佐藤、井上だな。

**ゼン先生**：私が一番年上ですが、相も変わらず、こんな活動をしています。

**小越先生**：みんな、どうしてるんだろうな。

**ゼン先生**：さああ、みなさん、偉くなっているんじゃないですか？

**小越先生**：静脈栄養・経腸栄養が大事だと言っているのは君だけになったか。

**ゼン先生**：融通が利かない人間ですから。

**小越先生**：いいじゃないか。飯森くんだったな、君のことをラストサムライと呼んだのは。

**ゼン先生**：はい。ラストサムライは「しぶとい」ので、倒れるまで静脈栄養、経腸栄養は大事だ！と叫び続けます。

**小越先生**：それがいい。オレと一緒に叫び続けよう。

**ゼン先生**：ありがとうございます。倒れるまでやりましょう。

**小越先生**：ところで、ふと思いついたんだけど、君の書いた本は売れてるのか？印税で儲かってるんだろう？

**ゼン先生**：何をおっしゃいますか。全然です。売れない本ばかり出版して、出版社に申し訳ないと思っています。

**小越先生**：しかし、意味のある本だとオレは評価しているけど。

**ゼン先生**：ありがとうございます。もちろん、そのつもりで書いています。本を出版したら儲かるとか、そんな問題ではありません。読んで欲しい、その気持ちだけです。

**小越先生**：そうだよな。長い時間をかけて書いたものだからな。

**ゼン先生**：どれだけの時間がかかっているかというのと、少なくとも医師になってからですから、40年以上かけて書いているんですよ。

**小越先生**：なるほど。実際に書くのは数年間だけど、その土台となる知識や経験は、40年以上かけて得たものだ。

**ゼン先生**：そうなんです。だから、私の本を読んで欲しいと思うんです。

**小越先生**：「私の患者になってくれてありがとう」は売れたのだから？

**ゼン先生**：いやあ、売れてません。このリーダーズ、2年前に開催予定でいろいろ準備したんですが、クリニコがランチョンセミナー用にこの本を20冊準備してくれていまして。今回の最後のクリニコのランチョンでの後、抽選で20人にプレゼントさせてもらいました。

**小越先生**：それはよかったじゃないか。

**ゼン先生**：クリニコの中島さんがいつも気を使ってくれるんです。ありがたいことです。

**小越先生**：読んだ人がまわりに広めてくれるといいんだけどな。

**ゼン先生**：そうですね。広報も大事ですね。

**小越先生**：大事大事。買わずに回し読みするやつもいるから売れないんだよ。

**ゼン先生**：それは小さなことです。出版社の方によると、本当に本が売れなくなっているとのこと。大手の出版社もつぶれています。

**小越先生**：必要な情報をネットでちょっと調べて、それを信じているんだろう。

**ゼン先生**：本当に危険です。ネットでの情報がダメだということもありませんが、信じていることができるのか、できないのかを判断することが大事です。

**小越先生**：その通りだ。今のロシアとウクライナの問題だって、ロシアはフェイクニュースばかり発信している。ロシアのウクライナ侵攻を正当なものだと信じているロシア国民が多いという情報もある。

**ゼン先生**：怖い話です。太平洋戦争の時の大日本帝国大本営発表、と同じです。

**小越先生**：本当だ。負けているのに勝っていると報道したんだからな。

**ゼン先生**：第二次世界大戦と同じことをやっているんですね。こんなにネットなどの情報ツールが発達しているのに。

**小越先生**：うそがまかり通っているんだ。都合の悪い情報は削除している。

**ゼン先生**：国にとって都合の悪い情報を発信するだけで殺される。

**小越先生**：ロシアも中国も困った国だ。

**ゼン先生**：困った国に責められるウクライナは、本当にかわいそうです。

**小越先生**：本当だ。この話題を取り上げるときがない。

**ゼン先生**：とにかく、ウクライナの人たちが平和に暮らせるようにしてあげたい、そればかり思っています。

**小越先生**：本が売れないの話からフェイクニュース、ウクライナ問題へと話は飛んでしまったが、漢字「栄養」のルーツをたどって、あの本は売れたんだろう？



↑ 私の著書の一部です。読んで欲しい、それだけです。

**ゼン先生**：いやあ全然です。本当、寂しいです。日本中の人が漢字「栄養」を使っているんだから、もっと興味をもってくれると思ったんですが。

**小越先生**：栄養の仕事をしている人には読んでほしいな。せめて管理栄養士、栄養士には読んで欲しい、オレもそう思う。

**ゼン先生**：興味がないんでしょう。漢字なんて、どうでもいいんですよ。

**小越先生**：歴史をもっと大事にして欲しいもんだ。

**ゼン先生**：先人の足跡の上でわれわれは生きている、生活しているんですからね。

**小越先生**：そう。オレ達が静脈栄養・経腸栄養の開発・発展のために努力したから、今の臨床栄養の領域があるんだ。

**ゼン先生**：もちろんです。でも、多くの人はそのような歴史的なことには興味がない。TPNなんて、エルネオパNFを投与することとしか思っていない。

**小越先生**：便利な製剤ができてしまったけど、そこに至るまでに、オレ達がどれだけ苦労したか、わかって欲しい。

**ゼン先生**：残念ながら無理ですね。興味がない人が多い。臨床栄養の有名人たちでも、歴史には興味ありません。

**小越先生**：そうか。オレに言わせると、エルネオパNFを開発したから、この臨床栄養の領域がダメになったんだ。便利さを追求しすぎだ。

**ゼン先生**：中身を考えない、知ろうとしなくなってしまった。

**小越先生**：ビジネス的には成功したんだろうけど、静脈栄養に対する興味がなくなって、結局、自分で自分の首を絞めることになっているかもしれない。

**ゼン先生**：これからの進歩の芽を削いでしまったのかもしれない。研究もしないし。

**小越先生**：個人個人にとってのベストの栄養輸液処方があるはずだけど、みんな同じ処方にしてしまったからな。

**ゼン先生**：最大公約数的な管理になっています。個人が無視されるようになりましてね。

**小越先生**：本当だ。個別の医療が大事だと言いながら、静脈栄養はそんなことを考えなくなってしまったなあ。

**ゼン先生**：微量元素やビタミンがどうやって開発されたか、そんな経緯には興味ないでしょうね。

**小越先生**：いろいろ苦労したんだぞ。

**ゼン先生**：私はよくわかっています。でも、その歴史を考えない人のほうが多いんです。

**小越先生**：そうだろう。オレを知らない、栄養の専門家が多いんだろう？

**ゼン先生**：残念ながら。岡田正先生だって、ほとんど知られてい

ません。

**小越先生**：まだオレのほうが知られているだろう？

**ゼン先生**：先生、細かい、しょうもない比較はやめましょう。

**小越先生**：すまん、そうだな。ダドリックは知られているだろう？

**ゼン先生**：いやあ、知られていません。私の講義を受けた、星薬科大学の学生さん、千里金蘭大学の学生さん、それと私の講演を聞かされた人たちは知っているでしょうが。

**小越先生**：そうか。今、いわゆる栄養の領域の有名人は誰なんだ？やっぱり東口くんか？

**ゼン先生**：どうなんでしょうね。私はもうJSPENの会員ではないので、わかりません。

**小越先生**：そうか。JSPENの理事長も東口くんから比企くんへ代わったからな。

**ゼン先生**：JSPENはこれからどうなるんでしょう。

**小越先生**：わからんが、これからはリハ栄養なんじゃないか？

**ゼン先生**：リハ栄養ですか。リハ栄養とくと若林先生でしょう。

**小越先生**：若林くんか。リハ栄養の領域にはたくさんスターが出ているんだろう？

**ゼン先生**：確かに。よくは知りませんが、スターが出ているようです。

**小越先生**：栄養管理をしながらじゃないとリハビリも進まない、という考え方が広まればいいんじゃないか？企業もその領域に力を入れているんだろう？

**ゼン先生**：食品の、リハビリ用製品がどんどん発売されています。

**小越先生**：クリニコのリハタイムゼリーなんて、その典型だろう。

**ゼン先生**：BCAAがたくさん入っている製品、貯筋のためという製品がたくさんでています。



↑ 東宝塚さとう病院の外科スタッフの写真です。阪大消化器外科の年報に病院紹介の記事を書かなくてはならなくなったので、記念写真を撮りました。3台のIPエコーを持ってもらって撮影しました。



**小越先生**：なるほど貯筋か。オレは貯金のほうが好きだ。

**ゼン先生**：それから嚥下食です。工夫された製品がたくさん出ています。

**小越先生**：リハビリ関係の人たちが栄養に興味をもつようになったんだろう？

**ゼン先生**：栄養の裾野が広がったのかもしれませんが。私、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のためのテキスト「リハベシク 生化学・栄養学」の「静脈・経腸栄養法」を担当したんですが、もう第4刷になっています。

**小越先生**：へええ、売れてるんだ。

**ゼン先生**：うらやましいことです。

**小越先生**：時代の流れを読んで、売れる本を出版しなくちゃ、君も。

**ゼン先生**：すみません、流れに乗れない人間なんで。

**小越先生**：冗談だよ。君が流れに乗れない人間だってこと、わかりすぎるほどわかっている。君は、オレや岡田さんの遺志を継いで、食べられない患者さんをどうするか、その方向に突き進めばいいんだよ。

**ゼン先生**：ありがとうございます。100回記念として、非常に元気が出る発言をいただきました。



↑3月31日の大阪大学の研究室周りの桜です。まだ満開ではないと思います。7分咲き程度でしょうか。やっと、やっと春が来た、そんな感じです。コロナは収束していませんが、自然は春を迎えました。伸び伸び生活したいですね。

**巻頭言** 今後、日本では適正な栄養管理が実施できなくなる

- 岡村健二：置かれた場所で咲こう
- 東海林徹：一薬剤師としての栄養管理への関わり
- 城谷典保：一人の外科医としての軌跡：外科代謝栄養研究の歩みと学会活動
- 北出浩章：術中過剰輸液は臍頭十二指腸切除術後胃内容排出遅延の要因
- 井上善文
  - ・アミノ酸・糖・電解質・脂肪・水溶性ビタミン液における微生物増殖性
  - ・CVポート内室構造の解析と薬液残留性の評価
  - ・長期CVポート使用症例における脂肪乳剤関連閉塞物の分析
  - ・輸液の投与方法-輸液バッグ容量と投与速度設定-に関する調査結果
  - ・経腸栄養実施時の追加水投与に関するアンケート調査結果
  - ・第5回 Medical Nutritionist Web講演会におけるアンケート結果
  - ・足のユビ、開きますか？-9016人の調査結果より



↑機関誌の内容です。岡村先生、東海林先生、城谷先生の「私の栄養管理歴」は非常に興味深い内容です。北出先生の臍頭十二指腸切除術後の食事摂取の論文はすばらしい検討結果です。私もいろいろ書きました。「足のユビ、開きますか？」の論文が欲しい方は連絡してください。

## 【今回のまとめ】

1. ウクライナの人たちがかわいそう！ロシアはひどい！プーチンとその取り巻きはひどい！ヒトとして、とは考えないんでしょう。何もできないけど、怒りの気持ちは持ち続けます。
2. 第11回静脈経腸栄養管理指導者協議会を熊本で開催しました。田中先生、森崎先生、そして池田病院の方々、ありがとうございました。おかげで有意義な学術集会になりました。
3. コロナはまだ落ち着きませんが、感染対策をきちんと講じながら、学術活動は再開できるはずですよ。やはり、会場での議論のほうが気合が入ります。
4. ゼン先生の栄養管理講座は第100回記念ですが、小越先生との雑談になりました。歴史を大事にして欲しい、この会話の中から読み取ってください。
5. われわれががんばらなくてはならないのは、食べられない患者さんに対する栄養管理です。小越先生や岡田先生の遺志を継いでがんばりましょう。